

しほろ会議宣言

今回、私たちは「生産地と消費地の連携による持続可能な地域づくり」をテーマに、日本の食料基地であるここ士幌町で、第25回の環境自治体会議に集いました。2日間の討議を経て、私たちは、生産地と消費地の連携は環境と経済の両輪が調和してこそ成立するものであり、「持続可能な消費と生産」という新たな発想から政策を進めることが必要であることに気づきました。

また、「持続可能な消費と生産」を実現するためには、地域特性に沿って長期的なビジョンを定め、目標・指標を設定して、到達点を確認しながら前に進んでいくことが必要であると認識できました。

そこで私たちは、創立25年・四半世紀の環境自治体会議の歩みを止めることなく、以下の5つの行動原則に基づいた取り組みを、住民、企業、行政が一体となって進めます。

1. 循環型社会づくり、低炭素社会づくり、食糧自給や安全性確保などの「持続可能な消費と生産」に関する政策を、国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)に沿って、グローバルな視点で進めます。
2. 生産者は、先人から受け継いだ自然の恵みを活かしつつも、それを減少させないように配慮した生産活動を行うことで、環境保全と産業育成の両立を図ります。
3. 消費者は、グリーンコンシューマー(環境にやさしい消費者)であるだけでなく、環境にやさしい商品・製品の開発や再生可能エネルギーの導入に自ら参画します。
4. 再生可能エネルギーを農林漁業・観光振興などに多目的で導入し、「持続可能な消費と生産」政策を地域の課題解決や活性化のために積極的に利用します。
5. 「持続可能な消費と生産」に関する学びの場を作り、若者からシニアまであらゆる世代が起点となった実践活動を進めます。

私たちは以上の5つの行動を都市と農村のそれぞれの地域で実践し、その結果を持ち寄り、互いの知恵を結集することで、生産地と消費地が連携した持続可能な地域づくりに取り組むことをここに宣言します。

平成29年5月26日
しほろ会議参加者一同